

ワークショップ 9

「悪性十二指腸狭窄に対するバイパスおよび十二指腸ステントの新しい位置づけ」

司会 小倉 健（大阪医科薬科大学病院消化器内視鏡センター）
肱岡 範（国立がん研究センター中央病院）

近年、悪性十二指腸狭窄に対する治療戦略は大きく変化している。これまでの外科的バイパス術に加え、内視鏡的十二指腸ステント留置術や EUS-guided gastroenterostomy (EUS-GE) など低侵襲治療の進歩により、患者背景や予後に応じた個別化治療が求められている。また、悪性十二指腸狭窄では胆道・膵管閉塞を合併する症例も少なくなく、包括的な内視鏡治療戦略が重要である。本ワークショップでは、それぞれの適応、成績、課題、今後の新たな位置づけについて議論を深めたい。